

調査地概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学人文学部社会学科文化人類学コース 公開日: 2011-12-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小谷, 春奈 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/6325

調査地概要

小谷 春奈

1 調査概要

静岡大学人文学部社会学科文化人類学コースでは、「フィールドワーク実習」を毎年開講している。静岡県内の特定の地域を研究対象のフィールドに設定し、現地に滞在して調査をすることを中心として、対象に迫ることを目的とした授業である。平成 23 (2011)年度は、6月 12 日から 18 日までの 7 日間、静岡市葵区井川地区本村(ほんむら)に滞在し、調査を実施した。前年度の調査地は榛原(はいばら)郡川根本町千頭(せんず)地区であった。

今回の調査は、教員 3 名、学生 18 名、計 21 名で実施した。当地では旅館・歛水荘にて寝食し、調査の拠点とした。調査は、実際に調査地を訪れる前の事前調査と、調査地での現地調査によって実施した。事前調査では、文献、インターネットサイト、静岡市の公式文書の収集・参照という手法を、また現地調査では、観察や体験、インタビュー、映像・音声資料、文献資料の収集・参照という手法を用いた。

2 静岡市葵区井川地区の概要

2.1 地理と人口

井川地区は、静岡市の最北端に位置し、長野・山梨両県に囲まれた山間地域である。政令指定都市・静岡の擁する 3 区のひとつ、葵区の一部であり、その自然にあふれた環境は、市の中核である葵区中心部と明確に対照を成している。面積は 498.9 キロ平方メートルであり、うち林野が 465 キロ平方メートルを占める。地区の中心に位置する静岡市葵区井川支所の標高は、670 メートルである【地図 1】。

地区内の一部は、長野・山梨・静岡 3 県にまたがる南アルプス国立公園と、大井川・安部川両上流域に位置する奥大井県立自然公園の一部に含まれている。地区の中心に一級河川・大井川が流れており、井川湖(ダム湖)は大井川の一部である。

アクセスは、自動車、鉄道、バスによる方法がある。自動車を利用する場合、市街地より県道井川湖御幸線をおよそ 2 時間北上する。鉄道を利用する場合、名鉄の私鉄・大井川鐵道の大井川本線と井川線を利用する。バスを利用する場合、静岡鉄道の路線バスと井川地区の自主運行バスを利用する。

地区は、本村を擁する井川、岩崎・上坂本、田代、小河内、口坂本の 5 つの地域に分かれており、各々が町内会を持っている。調査地である井川・本村は、葵区が区内遠隔地の住民生活円滑化のために設置した葵区役所井川支所や、郵便局、農業協同組合事業所、宿泊施設や商店が存在する、地区の中核地域である。

地区の平成 22 (2010)年の人口は 631 人であり、世帯数は 341 世帯である。人口が最多となったのは昭和 35(1960)年であり、人口 8236 人、世帯数 1300 世帯であった。当時、

これ程の人々が井川に居住していたのは、昭和 32(1957)年に完成した井川ダムの建設に伴う、労働者の流入によるところが大きい。以来、人口は減少方向を辿っている【表 1】。

教育機関は、井川幼稚園、井川小学校、井川中学校(いずれも静岡市立)が存在する。

2.2 産業

現在の井川地区の主な産業は、林業や農業、豊かな自然を利用した観光業、そして食料品や生活用品の流通を担い、地区の生活を支える商業である。主な農作物は椎茸、山葵、茶である。伝統工芸品として、ヒノキで作る弁当箱、「井川メンパ」が有名である。また、地区内には、大井川水系に 13 箇所ある水力発電所のうち 7 箇所が存在し、ダムは大井川水系 14 箇所のうち 6 箇所が存在する。

3 歴史と行政区画の変遷¹

周囲を囲む標高の高い山々によって、他地域と隔てられた井川であるが、最古の人的痕跡は縄文時代中期にまでさかのぼる。この時代の遺跡として位置付けられている割田原(わんだはら)遺跡の調査結果によると、人々は大井川河岸に住居を構え、林野での狩猟採集を生業として生活をしてきたようである。しかし、この遺跡は井川ダムの建設によって水没し、遺跡の公式調査結果は未発表であるため、当時の生活の詳細は明らかになっていない。弥生時代には、日本列島の多くの地域で気候が寒冷化したため、人々の主要な生業は狩猟採集から稲作に移行したが、この時期に、稲作に不向きな井川において定住生活が営まれていたかどうかは定かではない。

その後、井川の歴史における確実な人的痕跡が登場するのは平安時代以降のことである。この時代の井川の人々は、大井川河岸での砂金の採取や鷹の捕獲などを生業としていた。室町時代中期前後から、駿府や井川の史料に、井川で活躍した一族として安部氏・朝倉氏・海野氏などの名が現われるようになる。これらの支配層のもとで地域の人々は金山を開発し、大規模な金の採取を行なった。江戸時代には、現在の静岡市中心部にあたる駿府の街は徳川家康父子の城下町となり、江戸と並ぶ政治の中心地となった。当時井川を治めていた海野本定は、家康に重用されて井川金山の奉行となり、また、井川周辺の材木を駿府城の用材として提供した。

その後、明治 22(1889)年に市町村制が施行され、小河内・上坂本・田代・岩崎・中野・葉沢・口坂本が井川村として区画された。明治 23(1890)年に義務教育 4 年間を設けた井川尋常小学校が開校、明治 25(1892)年に井川郵便局が開局するなど、生活の近代化が進んだ。昭和 27(1952)年に静岡県総合開発計画の一環として「井川ダム」建設が開始され、前述のように、井川の人口は 8236 人まで増加した。ダム建設の結果、住宅が 194 棟、神社仏閣が 8 棟など建築物計 509 棟、田が 7100 坪、畑・採草場が計 17300 坪水没したが、これは、高地への住宅の移動など、人々の生活に大きく影響を与えた。昭和 44(1969)年に、井川村は大河内村、梅ヶ島村、玉川村、清沢村、大川村とともに静岡市に合併・編入され、後に住民生活の円

¹ この節の記述は、主に以下の文献に依拠している (久保田 2006、宮本 1978)。

滑化のために静岡市井川支所が設置された。そして、平成 17(2005)年の静岡市の政令指定都市移行に伴い、葵区に編入されて現在に至っている。

すでに述べたように、平成 22(2010)年度の井川地区の人口は 631 人、高齢化率は 54.8 パーセントであり、近年問題として取り上げられている「限界集落²」という状態となっている。静岡市ではそういった集落の振興のために、井川地区をはじめとする市北部中山間地域を「オクシズ(奥静岡の意)」と呼び、様々な取り組みを進めている。

5 参考文献・参考HP

久保田三郎

2006 『井川村のうつりかわり』 自費出版

宮本勉

1978 『史料編年井川村史 第一巻・第二巻』 名著出版

静岡市ホームページ

<http://www.city.shizuoka.jp/> (2011/10/25 現在)

オクシズホームページ

<http://www.okushizuoka.jp/> (2011/10/25 現在)

² 65 歳以上の人口が総人口に占める割合を高齢化率と言うが、その値が 50 パーセント以上の集落のことを指す。



静岡県図



静岡県葵区井川地区周辺図



井川地区井川本村周辺図

地図 1

表 1 井川地区人口推移表

年度	世帯数(人)	人口(人)	男(人)	女(人)	高齢化率(%)
昭和 25	543	1,517	1,517	1,475	
30	914	3,223	3,223	2,000	
35	1300	8,236	5,672	2,564	
40	679	3,362	1,900	1,462	
50	498	1,691	900	791	
60	511	1,310	686	624	
平成 2	421	1,184	583	601	
7	417	1,033	504	529	
8	400	942	455	487	
9	399	919	450	469	
10	402	892	440	452	
11	398	880	439	441	
12	398	855	431	424	
13	396	828	418	410	47,9
14	389	812	410	402	49,0
15	379	783	393	390	51,0
16	369	767	386	381	52,5
17	362	732	365	367	54,7
18	362	710	356	354	55,4
19	362	688	345	343	55,2
20	345	656	327	329	57,9
21	346	646	324	322	54,0
22	341	631	325	316	54,8